

インフルエンザについて

山田 豊(内科医)

インフルエンザとは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症です。1～3日間の潜伏期間を経て、38℃以上の発熱・頭痛・全身倦怠感・筋肉痛・関節痛などが突然出現し、咳・鼻水などの上気道炎症状がこれに続きます。1週間前後の経過で軽快するのが典型的なインフルエンザの症状であり、いわゆる「かぜ」に比べて全身症状が強いのが特徴です。高齢者では二次性の細菌性肺炎、小児ではインフルエンザ脳症等の合併症が知られており、インフルエンザの大きな死亡原因となっています。

抗インフルエンザウイルス剤のタミフルは、インフルエンザ発症後48時間以内に服用すれば、症状の軽減が期待できます。しかし、10歳以上の未成年の患者において、因果関係は不明であるものの、タミフル服用後に異常行動を発現し、転落等の事故に至った例が報告されており、呼吸器疾患患者等の合併症をもつ患者以外は、本剤の服用を差し控えるようにとされています。

インフルエンザの予防には、インフルエンザワクチン接種が有効ですが、抗体ができるまで2週間以上かかるため流行前のワクチン接種が望まれます。その他、外出から帰ってきた後のうがい・手洗いをまめに行う、マスクや加湿でのどや鼻粘膜を守る、部屋の換気をまめにするなどインフルエンザの予防に効果的です。

高病原性鳥インフルエンザ(H5N1)は、毒性の強いインフルエンザウイルスで、通常は鳥から鳥へ感染するが、稀に鳥から人へと感染します。2007年11月の時点で、世界で334人の感染報告があり、そのうちの205人が死亡しています。日本では、鳥から人への感染報告例はありません。鳥インフルエンザの潜伏期間は2～8日間。38℃以上の発熱・咳嗽等の下気道炎症状、下痢や嘔吐等の消化器症状、鼻出血、歯肉出血も見られます。

高病原性鳥インフルエンザの発症予防に現行のインフルエンザワクチンは無効ですが、症状の軽減にはタミフルが有効とされています。

2007年1月、宮崎県下の養鶏場で鳥インフルエンザが発生したのは記憶に新しいが、鶏の殺処分することで封じ込めに成功し、関係者のみを対象としたタミフルの予防投与が人への感染も予防しました。



せせらぎ

創刊号

2008年1月発行



老司川で泳ぐ鴨 撮影:広報委員会

「せせらぎ」創刊に寄せて

院長 西岡雄二

毎日寒い日が続いておりますが、皆様には益々御健勝のこととお喜び申し上げます。この度、西岡病院広報誌「せせらぎ」を発行する運びとなりました。この「せせらぎ」という名前は、院内にて募集を行いましたところ、日頃から「川の流るるの音や、川面に遊ぶ鷺や鴨などの水鳥の姿に癒される」という患者様の声や、「水の流るるのように穏やかに、また速やかに回復をしていただきたい」との願いを込めて誕生いたしました。今後は、年2回の発行を予定いたしておりますので、御高覧願えれば幸いに存じます。今後とも、皆様の御指導、御鞭撻の程よろしくごお願い申し上げます。

○ 関連施設 ○

中尾診療所

(内科・胃腸科)
福岡市南区中尾 2-15-23
☎092(542)1180
FAX092(542)1197

のぞみ

メンタルクリニック
(神経科・精神科・心療内科)
筑紫郡那珂川町中原 2-130
☎092(953)5800
FAX092(953)5855

みどり訪問看護 ステーション

福岡市南区老司 2-2-20
☎092(566)2571
FAX092(566)1617

グループホーム ソレイユ

福岡市南区老司 1-1-11
☎092(565)8436
FAX092(565)8437

当院理念 私達は、患者様が安心して信頼できる最善の医療を提供し、患者様の回復と自立への支援に努めます。

医療法人社団 照和会 西岡病院

(財)日本医療機能評価機構認定病院

〒811-1346 福岡市南区老司2丁目3番34号

電話 092(565)5651 FAX 092(565)5652

URL <http://www.nishioka-hp.or.jp>

太宰府日帰り旅行

作業療法室

当院の作業療法では「喫茶ハッピー」という活動があります。月に1回、病棟の患者様を対象にした喫茶活動を行い、喫茶ハッピーのメンバーは病棟の患者様をおもてなしするという役割を担っています。

今回は喫茶ハッピーを運営しているメンバーで話し合いをもち、売り上げで太宰府へ行くことになりました。



ジャンボタクシーで太宰府へ行き、まず到着してからは昼食を雰囲気の良い、「かさの家」で頂きました。

それからゆっくりと橋を全員で渡り、境内へ歩いて参拝をしました。

「平日なのに人が多いね。」「10年振りに来ると景色が変わっているな〜。」と日頃見ない太宰府の景色をメンバー全員が堪能していました。

参拝が済んだら太宰府名物の梅ヶ枝餅を食べて、天満宮の隣にある国立博物館に行きました。縄文時代から江戸時代までの重要文化財にふれる事が出来た貴重な時間となりました。



「また、行きたいね。」と帰り道は満足した笑顔が印象的で今回の旅行を通じてメンバー同士の親睦が図れた様に思います。

部署紹介『医局』編

医局長 東中園 聡

当院は、老司地区を中心として内科系医療に要請に応えようとする歩みとしてスタートし、開院以来 85 年の歴史があります。

現在は 150 床の入院設備や外来診療において、精神科及び内科の診療を行い、地域医療に一旦を担わせていただいております。

当医局は、地域の皆様の健康の回復と保持の援助のために、院長をはじめとする 4 名の常勤医（精神科 3 名・内科 1 名）と非常勤医師にて構成しております。

皆様の中には、精神科の受診に抵抗を感じる方も多いと思いますが、どなたでも心の悩みを体験し、「憂鬱な気分」や「眠れない」などの心身の不調を自覚することはありえることです。

また、「ストレス」や「生活習慣」などに起因する内科疾患についても健康診断や健康相談も心掛けたいものです。

専門のスタッフが窓口となり相談をお受けいたします。どうぞお気軽に御相談下さい。

また、関連施設として

「のぞみメンタルクリニック(那珂川町)」

「中尾診療所(南区中尾)」

「みどり訪問看護ステーション(南区老司)」

「認知症高齢者対応型共同生活介護グループホーム ソレイユ(南区老司)」を開設し、皆様の健康のサポートをしていきたいと考えております。

病院行事報告『文化祭』

去る11月22日に西岡病院文化祭を開催しました。例年好評のぜんざいや肉まん等の模擬店や、病院の畑で採れた「野菜販売」「陶芸」「革細工」「編み物」の体験コーナーや「元気体操」と称して音楽に合わせた簡単な体操も行いました。



また、フリースペースみなみさん(作業所)や「授産施設みらい」さんにも御参加いただき、手工芸やお菓子の販売をしていただきました。



患者様にとっては日頃の作業療法活動の成果を発表する場として、作品の展示や各催し物のお手伝いをしていただき、忙しくても充実した1日を過ごしていただいた様子で、多くの方に喜んでいただきました。

病院行事委員会

「一言」

毎年、新春レク・運動会・夏祭り・文化祭での催し物や展示品・模擬店などを企画し運営を行っているのが各部署1〜2名の行事委員です。

今回、文化祭についてどのような内容で行くのか、展示品の配置など毎週1回の委員会ではいろいろな提案を持ち寄り、安全でかつより良いものにしていくにはどうすればいいのか…といった話し合いの場が約3ヶ月に渡り行われてきました。

患者様の日頃の成果を発表する場としては、鑑賞スペースが十分に設けることが出来なかったという反省点はあったものの、スタッフの人員確保・時間の余裕・安全に無事終えることができた利点のほうが大きかったという声が聞かれました。

これからも、行事委員の皆さんには頑張っていてほしいと思います。ご苦労様でした。

2階病棟家族会「陽だまり」活動報告

2階病棟(精神科一般病棟)

2階病棟では

- ①家族会の率直なご意見を伺い快適な療養環境を提供する。
- ②ご家族の悩みや患者様の病状に対するの思いなどを話し合いご家族間の親睦を図る。
- ③ご家族への心理教育を行う。

を目標に毎月家族会を実施しており、多数のご家族に出席していただいております。

昨年 12 月には病棟のクリスマス会に参加していただき患者様とスタッフと一緒に楽しいひと時を過ごしていただきました。

今後も、ご家族の皆様と連携し患者様にとってよりよい病棟にしていきたいと考えております。

